

## 令和5年度第1回いわき市医療センター病院経営評価委員会議事録

- 日 時 令和5年7月24日(月) 午後6時00分～午後7時30分
- 場 所 いわき市医療センター 1階 きょうりつ講堂
- 出席者 1 委員(出席:8名)  
赤津 雅美、秋元 英典、加藤 尚子、木村 守和、  
坂本 美智子、新家 利一、高沢 祐三、高萩 周作  
※五十音順・敬称略  
※木村 千春委員は欠席
- 2 事務局  
相澤院長  
大平副看護部長  
飯塚事務局長、緒方事務局次長兼総合調整担当
- ・経営企画課  
鈴木課長、鈴木統括主幹兼課長補佐、  
横山企画広報係長、新妻事務主任
- ・総務課  
酒井参事兼課長
- ・医事課  
根本課長、猪狩主幹兼課長補佐
- ・施設管理課  
齊藤課長
- ・情報システム管理室  
野口室長
- 配布資料
  - ・(資料1) 令和4年度第2回いわき市医療センター病院経営評価委員会 議事録
  - ・(資料2) 令和4年度の取組状況(決算見込等)について
  - ・(資料3) いわき市医療センターにおける中期経営計画(公立病院経営強化プラン)の策定について
  - ・(参考資料1) 次期中期経営計画の基本方針骨子〔令和4年度第2回いわき市医療センター病院経営評価委員会資料〕
  - ・(追加資料) 医師の働き方改革に係る取組みについて

## 1 開会

## 2 報告

事務局から、資料1「令和4年度第2回いわき市医療センター病院経営評価委員会 議事録」に基づき報告した。

## 3 議事

### (1) 説明事項

#### ① 令和4年度の取組状況（決算見込等）について

事務局から、資料2「令和4年度の取組状況（決算見込等）について」に基づき説明した。

#### ② 公立病院経営強化ガイドラインへの対応について

事務局から、資料3「いわき市医療センターにおける中期経営計画（公立病院経営強化プラン）の策定について」に基づき説明した。また、追加資料「医師の働き方改革に係る取組みについて」に基づき説明した。

### [委員からの質疑・意見等]

#### 【資料2について】

(委員A)

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の位置づけが、感染症法上、2類相当から5類感染症に移行したことにより、病床確保料等の財政支援が縮小されたと説明があったが、今後の病院経営の見通しはいかがか。

(事務局)

当初予算では、病床確保料を11億円と見込んでいたが、単価の減額調整等により、単純計算で病床確保料は5.5億円程度まで減少すると試算している。

一方で、令和5年4月から急性期充実体制加算の算定を新たに開始したことにより医業収益の増収を見込んでいるほか、患者数も回復基調にあることから、収支は概ね均衡すると思われる。

#### 【資料3について】

(委員B)

「顔の見える連携」について、例年1月に医療センターが主催する交歓会には、地域医療機関の関係者が多数出席し、医療センターの活動状況の報告を受けるなど貴重な交流の機会になっていると思う。市内の医師は、医療センターの各診療科が取り組む様々な最先端の治療等をもっと知りたいと考えているため、今後も、地域の基幹病院として、活動状況や地域との連携の方向性を報告・共有する場を設けてほしい。

(事務局)

地域連携については、感染症の流行によって他医療機関との交流の機会が減少した影響で、当センターと地域医療機関との間での連携が難しくなっている面があると考えている。今後は、そうした会合も徐々に再開してくると思われるので、機会を捉えて、顔の見える形で情報交換を行っていきたい。

(委員B)

「地域医療機関への訪問活動の実施」については、意義のある活動だと思うが、本市は非常に広いので、訪問に係る労力が大きいのではないかと。

(事務局)

訪問活動については、ご指摘のように非効率な面はあるものの、地域の先生方を訪問させていただいてご意見を伺うという姿勢が重要だと考えている。

(委員C)

医師数が不足しているという説明があったが、看護師の数についての現状や採用の考え方についてお聞きしたい。

(事務局)

当センターの看護師数について、直近5年間では、670～680人の間で緩やかな増加傾向にある。採用にあたっては、事務部門から看護部に対して、必要な看護師数に関する事前ヒアリングを行い、その結果を可能な限り採用人数に反映するよう努めている。

(委員C)

市内各病院の医師不足は大きな課題だが、看護師不足も深刻だと考えている。特に夜勤に従事する看護師の不足によって、運営に支障をきたす病院が増えてきている。

現在、市内の医療連携は一定程度保たれているが、次のステップとして医療従事者を共有する取り組みが実現できればと思う。医療センターを中心として、医療センターの医師や看護師を地域の医療機関に派遣したり、逆に医療センターに地域の医師等が応援に来たりというシステムが構築できれば、医師不足・看護師不足に対する対策になるのではないかと。

(事務局)

医療センターの看護師も決して余剰があるわけではなく、苦心しながら運営している状況のため、今すぐに看護師派遣の仕組みを構築するのは難しい状況にある。

(委員C)

医療センターの看護師を派遣する仕組みづくりはそう簡単には進まないと思う。一方で、新型コロナウイルス感染症患者が一時的に入所する宿泊療養施設を運営するにあたり、本市でもOB・OGや休職中の看護師をかなり迅速に呼集することができた。こうした事例もあるので、市全体で、潜在看護師の復職を支援する仕組みが構築できればとも思う。

(委員B)

今日の議題からは逸脱するが、人材の不足に関しては、人材の絶対数が少ないままでは問題が解決しないため、行政が、医師・看護師や介護に関わる方を集めるなどの施策を講じて欲しい。市の政策として、人口を維持し今後の経済活動を持続させるために医療と介護を充実させる、という方向に転換してほしいと考えている。

(委員B)

基本方針Ⅲに関連してだが、近年、災害が多発・多様化している背景も踏まえ、各病院や消

防本部、行政と連携して想定外の災害にも備えるという文言を計画本文に盛り込むことを検討していただきたい。

(委員B)

RRS（院内迅速対応システム）の稼働状況についてお伺いしたい。

(事務局)

4月から現在までの累計で十数件程度となっている。病棟からのRRSコールが少ない状況のため、今後、職員への教育も含めた体制整備をさらに進めていきたい。

(委員D)

医療センターの結核病床について、現在呼吸器内科の常勤医が不在のため稼働していない状況にあり、市内で結核患者が発生した場合には、市外の医療機関に対応を委ねている。

今後、結核病床を稼働させた場合に、病院の経営面での懸念材料はあるのか。

(事務局)

結核医療については、総務省の基準に基づき、市の一般会計から病院事業に対する繰出しが認められている。これは、診療行為で得られる収入で賄い切れない費用は一般会計が負担するというものであり、今後、実際に当センターで結核患者を受け入れる際には、こうした仕組みを活用することで財政面での負担が軽減できると見込まれる。

(委員C)

医療センターのフェイスブックや新たに開設したインスタグラムを興味深く閲覧している。今後は、市や医師会などの取組みも取り上げるなど、更なる活用を検討して欲しい。

#### 4 その他

第2回の委員会は、10～11月頃に開催予定であることを事務局から報告した。

#### 5 閉会